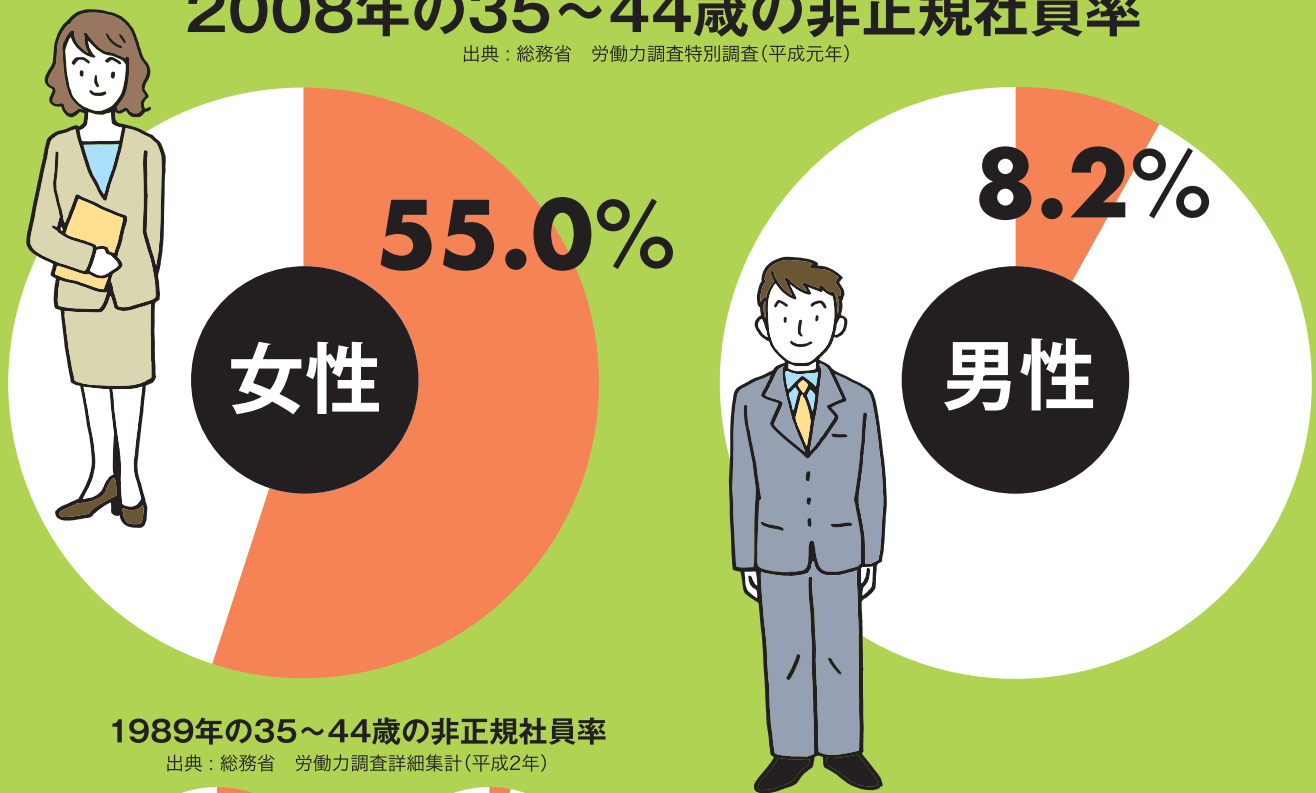


# 41歳と 一緒に考える、 男女共同参画。

## 2008年の35～44歳の非正規社員率

出典：総務省 労働力調査特別調査(平成元年)



## 1989年の35～44歳の非正規社員率

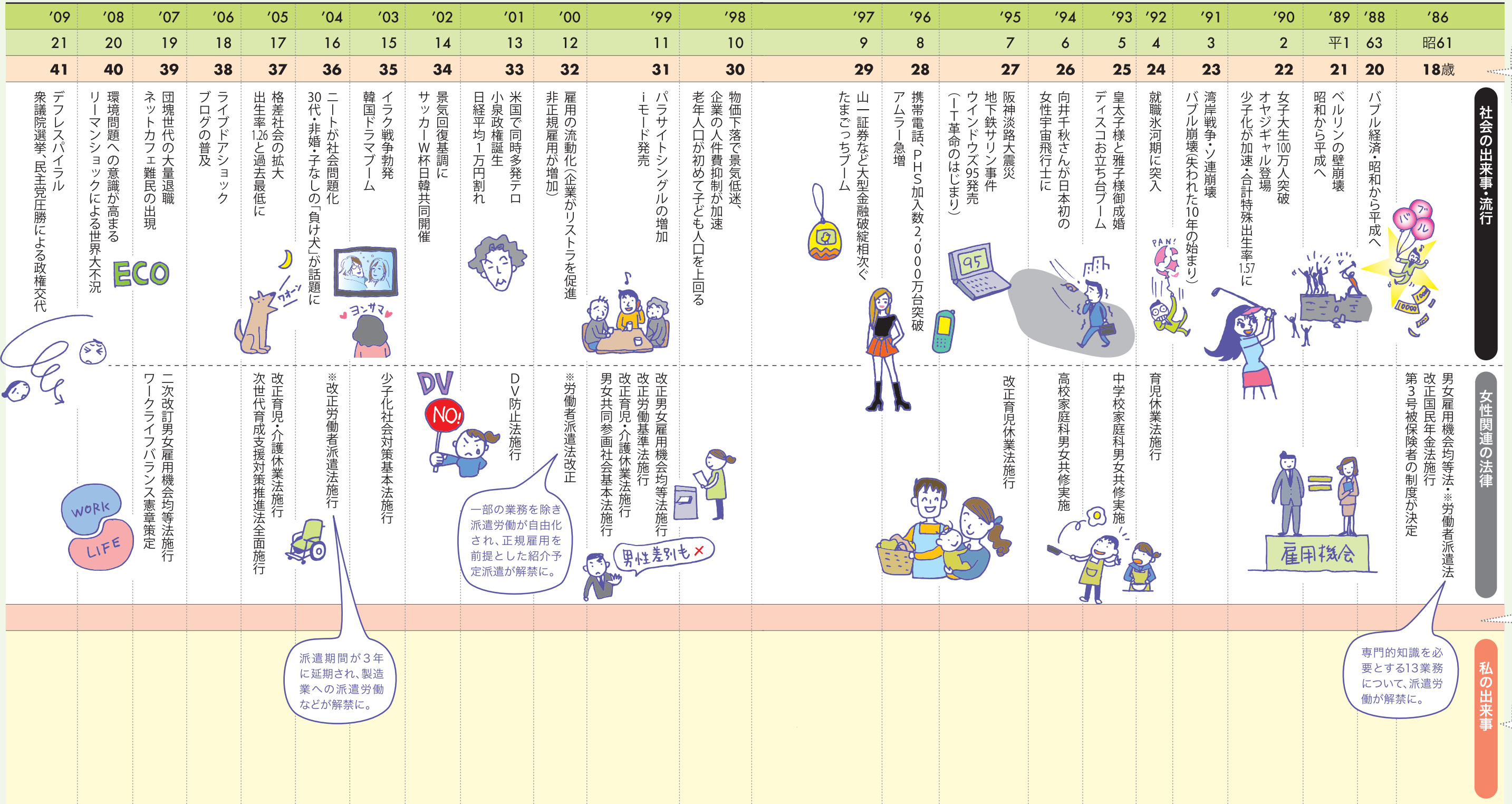
出典：総務省 労働力調査詳細集計(平成2年)

35～44歳全体の非正規社員率は、2008年が27.9、1989年が19.6となっている。これらの調査結果から、全体として非正規社員率が上昇していることがわかる。依然として、女性の非正規社員率が高いのが現状である。

あの頃ハ9才、  
今アラフォー

# 20年で 働く環境はどう変わった?

1986年に男女雇用機会均等法が施行され、  
女性の社会進出が本格的に始まって20年以上が過ぎました。  
前号(55号)では、その中で生まれ育った「14歳」がテーマでした。  
無垢だと思っていた彼らの中にもしっかり性差意識はあり、  
周囲の大人の考え方が強く影響することを実感しました。  
今「アラフォー」と呼ばれる人たちは、彼らの親世代でもあり、  
大きな時代の変革の中をずっと生きています。  
「41歳」との座談会や年表を通して、仕事観や生き方の変化を見ていこうと思います。



※参考文献:『日経ウーマン』2008年5月号



座談会



アラフォー=around 40(40歳前後)

フォー  
アラ放談

# 「ワーク」と「ライフ」と「地域活動」のバランスで生きる。



男女雇用機会均等法が施行されてから約20年。  
働く環境や生き方はどう変わってきたのでしょうか。  
アラフォー世代の男女6名に、同世代の編集部代表  
アラフォー2名も加わっての本音トーク。  
働く現場の実情、非正規社員で働くこと、  
子育て世帯に必要な制度や仕組みなど、  
男女の問題をベースに置きながら  
現代の問題点を浮き彫りにします。

**男女関係なく  
キャリアアップ  
できる時代に  
西岡**／バブル崩壊やIT革命、非正規雇用の増加、男女雇用機会均等法や育児休業法の施行など、この20年間で働く環境は大きく変わりました。それによって皆さんが影響を受けた出来事や、変化を感じることがあれば教えてください。

**山本**／15年くらい前からPC、ITが普及し、私たちはIT以前を知っていた世代です。社会人になってしばらくしてから職場でワープロを使うようになり、その後パソコン、インターネットへと。ITの進化と共に、仕事のやり方もどんどん変わってきました。私たちの世代は、否応なしにそれに対応していくしかなかった。すでに子どものころからITに慣れている30代以下の世代とは、その部分で大きな隔たりを感じます。

**笠原**／大学で学生の就職を担当しているのですが、リーマン・ショックの影響による不況が気になっています。私が就職した91年頃は、バブル崩壊の時期でしたが、就職は楽だったと思います。卒業後しばらくはフリーターとして自由に生活し、ある程度の年齢になったら正社員として就職する人も多くいました。でも今は、年齢を重ねても正社員として

働く場がなくてフリーターのままの人が増えている。就職面だけを見ても、時代は大きく変わりましたね。

**影山**／自分自身のことですが、20代のころは、40代の独身なんてあり得ないと思っていました。でも自分がその立場になって、ごく普通に暮らしている。独身でも生きやすい時代になったと思います。

**西岡**／男女共同参画の視点から変化を感じることはありますか。

**平岩**／以前は同じ女性でもバリバリ働いてキャリアアップしたいという層と、仕事は結婚までの腰掛けと割り切っている層がはっきり分かれていました。でも今は女性の多くが仕事をしていて、女性の生き方に典型がなくなっていると感じます。

**山本**／今は職場でも男女の性差がなくなってきたという意識が浸透してはいけません。最近では、私たちがより上の50代、60代世代にも男女平等の意識が広まりつつありますね。

**笠原**／私の働いている大学の職場は既婚の女性職員が多く、子どもがいる方は残業が少なかったり、子どもの急な体調不良による休みにも職場の理解があったり、働きやすいと思います。ただその分、独身女性や若手男性にしわ寄せが来ている現状があります。

## 座談会参加者プロフィール



八木あゆみさん  
YAGI AYUMI

1969年生まれ。金融機関職員、既婚、家族は夫と長男(9歳)。専門学校卒業後、金融機関に就職。結婚、出産後も仕事を続け、36歳の時に主任になる。独身時代は青年団活動に力を入れていたが、結婚後は仕事と育児の両立で多忙な毎日。最近、お茶のお稽古を再開。



山本六三さん  
YAMAMOTO MUTSUMI

1967年生まれ。県職員。既婚、家族は妻と長女(7歳)、二女(5歳)、三女(1歳)。大学卒業後、県職員に。仕事の延長で高校中退者の支援、子育ての延長で食育検定と遊び場情報サイトを運営。大学に人事交流し、マーケティングの授業を聴講しながら次の一手を思案中。



笠原直樹さん  
KASAHARA NAOKI

1969年生まれ。大学職員、未婚、家族は両親と兄。大学卒業後、経営コンサルタント会社を経て、大学職員に転職。キャリアカウンセラーの資格を取り、進路支援の仕事に携わる。働きながら大学院(通信制)を修了。ヨット、乗馬など仕事以外の活動、趣味も多彩。



岡尾純子さん  
OKAO JUNKO

1967年生まれ。主婦・医療事務パート、既婚、家族は夫と長女(高1)、長男(中2)。短大卒業後、金融機関に勤務。25歳で結婚退職し、26歳から専業主婦となり子育てに専念。37歳から病院に医療事務のパートとして勤務。自分の時間が持てないのが悩み。



平岩由佳さん  
HIRAIWA YUKA

1967年生まれ。フリーコピーライター、既婚、夫と2人暮らし。大学卒業後、広告代理店勤務を経て26歳で結婚、独立。以後、マイペースで仕事を続けている。子どもがいないこともあり、結婚後も生活に大きな変化はなし。



影山光世さん  
KAGEYAMA MITSUYO

1968年生まれ。会社員、未婚、家族は父、母。専門学校卒業後、会社員を経て25歳の時、ワーキングホリデーでカナダへ。その後派遣社員の傍ら、オーストラリアへ短期留学し、帰国後、日本語教師の勉強を始める。30歳から10年ほど一人暮らしをし、最近実家に戻る。

司会：ねっとわあく編集部



西岡あおい  
NISHIOKA AOI

1967年生まれ。編集や原稿を書く仕事を個人で請け負う。未婚、家族は父、母。短大卒業後、念願だった編集関連の仕事に就き現在に至る。好奇心旺盛で、未知の世界に興味津々。貯金は苦手だが、将来のために備えが必要だと痛感する今日この頃。



村田美千子  
MURATA MICHIKO

1968年生まれ。書店パート、既婚、夫と夫の家族と2世帯暮らし。短大卒業後、結婚まで印刷関連の会社に勤務。独身時代より青年団に参加し、現在は夫婦で若者を支える活動をほそぼそと始めている。